

# 学校だより



令和4年9月30日  
横浜市立二谷小学校  
校長 矢島 孝幸

「秋が来た！！」

副校長 西 かおり

9月初旬、1年生の下校指導をしました。靴を履き終え、全員が並ぶのを待つ間のこと。「副校長先生、見て！あの雲、くまみたい。」と、声があがったのを皮切りに「カエルにも見える。」「となりの雲はうさぎかな。」など雲をいろいろなものに例えて楽しんでいました。

9月下旬になりました。ひと月とたたない間にすっかり秋を感じる季節となりました。風の冷たさや雲が溶け込んだように澄んだ青空が感じられるようになりました。これからは、うろこ雲やすじ雲、いわし雲や羊雲といった秋空ならではの雲が見られます。さて、1年生はこの雲を見てどのような感想をもつでしょうか。天気の良い日に1年生と雲を眺めてみたいと思います。

おど  
かれぬ  
る

風  
の音に  
ぞ

見  
えね  
ども

目  
には  
さや  
かに

秋  
来  
ぬ  
と



さて、この句は、平安時代に藤原敏行が詠んだ句です。現代語訳によると、「秋の初めのころには、まだ木々の緑も青々としています。「秋が来た」と目にははっきりと見えません。けれど、聞こえてくる風の音で秋がきたことにはっと気づいたのです。」という意味だそうです。（※この句は、A棟階段の掲示板に学校司書の安田先生が掲示してくださっています。）昔も今も季節の移ろいを自然から感じ取るということが分かります。

二谷小学校では、職員室前からいろいろな秋を感じることができます。黄金色に色づき、頭（こうべ）が垂れている5年生のバケツ稲。子どもたちの背の2倍以上の高さにまで育ち種がびっしりと実った3年生のヒマワリ。すっかり茶色になりふっくらした種がついた1年生のアサガオの蔓。大人にとっては、いつもの秋の風景の一つではありますが、子どもたちにとっては初めての出会いです。「(稲穂が)こんなに下を向くほど重いのかな。」というつぶやきや「ヒマワリにたくさん種ができた！いくつあるんだろう。」「(アサガオの) まあるい袋に種が四つも入ってた！」など植物の様子や変化に感動する声が聞こえてきます。そんな子どもたちの姿を見ていると、活動制限がある中での学習活動ではありますが、時間をかけて育てたり観察しつづけてたりすることでの学びや感動は、変わらず得られるのだということが分かります。「天高く馬肥える秋」です。さわやかな秋という季節は、落ち着いてじっくり時間をかけて取り組むのにはとても適しています。子どもたちには、前期の振り返りをもとに後期に頑張ることを決め、目標に向かって地道に取り組んでくれることを期待します。植物がたわわに実るように子どもたちにとって実りある秋になるように指導支援をしていきたいと思います。